

こんにちは  
健保組合です！

# 古川運送株式会社 の巻



夏休みが終わり、月も変わったばかりの九月三日が今回の取材日でありました。

初秋とは暦のうえばかりで、この日も盛夏を彷彿とさせるエネルギーにあふれた太陽がキラキラと照りつけ、最高気温がゆうに三〇度を超えるなか、事業所訪問の第四二回目として東金市薄島に所在する古川運送株式会社へ私たちがお邪魔するこ



古川秀夫社長

ととなりました。

気象庁の発表では、関東地方の八月の平均気温は平年を一度近く上回ったそうです。原因は地球の温暖化等による全世界的な異常気象とのことです。身近なことだからできる環境への思いやりを忘れずに、昨日から元気に学校に登校する子どもたち

に、「美しい地球」を残さなければと

され、大手企業の寡占状態が続くこととなりました。

古川社長は、これは対岸の火事ではなく必ずしも同じ状況に陥るのだ、そのときどうしたら生き抜くことができるのかと考え、おぼろげに見いだした答えは、「地域密着型企業」「独自性のある特化した企業」だそうです。大

手にできないことが必ずあると信じて一〇年以上前から布石を打ち、来る淘汰の時代に備えられました。

氏は、世の中が厳しければ厳しいほどアイデアと努力でビジネスは広がるの考えのもと、情報のアンテナを張りめぐらせながら常に前を向いて、古川運送を導いてこられました。だからこそ「闇のなかにも明かりが見える」ということを今、実感しておられるのでしょうか。

同社は、昭和四十六年の創立で、昨年三〇周年を迎えられたそうです。二〇代後半に会社を設立されてから「工夫もなく利益を出す企業が、果たして本当の企業なのか」と自問自答されてこられたそうですが、私たちは今、古川社長に水を得た魚のごとく、全身にみなぎるエネルギーを感じました。

同社の業務内容は、創業当時は地元の農産物や飼肥料の運搬を主にさ

考えながら、私たちは今日の目的地を目指しました。

＊

古川運送株式会社のある東金市は、千葉県中東部、九十九里平野のほぼ中央に位置し、古くから農業・商業等の産業を中心に発展し、山武郡市の中核都市としての役割を担ってきた街です。主要道路や鉄道等の整備も進み、交通の利便性が高いことから土地区画整理事業や大規模開発等

れ、現在では、一次または二次加工された冷凍・チルド食品などの配送業務をメインにされています。夜間に、配送する荷物が倉庫に集められ、それから朝にかけて配送先である問屋、小売店、レストラン……ごとに

仕分けされます。大きな倉庫は「荷捌き場」の役割を果たしているのだそうです。通常、私たちがお邪魔した時間帯に向かかって走り出したあとのことでしたが、この日はたまたま商品の入庫が遅れたために仕分け作業が遅れ、ついさっきまで古川社長自ら陣頭指揮を、倉庫でとられていたのだそうです(社長の額に光っていた汗の理由がわかりました)。

## 「人材育成」は 盤石の企業の条件

話題は変わり、これからの事業構想について氏は、「人材育成」とおっしゃいました。企業運営は古川社長がイニシアティブをとっておられることはもちろんですが、「自分は不得手な部分がある」と自己分析されるなかで、「そこを補完してくれる人材がほしい」と本音を漏らされました。トップが会社の進むべき道を踏み

が進展し、近年の人口の伸び率は千葉県下三市中、第二位となるほど、発展が著しい街でもあります。

千葉市から銚子方面へ向かう国道一二六号を九十九里浜に向かつて折れ、しばらく行くと、構内作業に活気が感じられる大きな倉庫を併設した同社の本社事務所がありました。

## 厳しい時代にこそ 転がっているビジネスチャンス

事務所に到着し、「こんにちは健保組合です」とあいさつすると、私たちは応接室に案内されました。間もなくして、額に大粒の汗を光らせた同社社長である古川秀夫氏が「ようこそ」と入室され、私たちの取材にお付き合くださいました。

冒頭、医療保険制度抜本改革の目玉として今年の通常国会でようやく成立した改正健保法等に端を発し、日本の社会保障のことなどが話題になりました。

これからますます少子高齢化が進むなか、医療・年金ともに財政が逼迫することは明白で、給付と負担のバランスを考えたとき、将来像がみえ、安心して生活できる保証がなければ過大な負担に対し国民は「ノー」という判断を下すことになり、社会

保障制度の存続はこれからの政治手腕にかかっているということで見解が一致しました。

世界に誇れる制度を存続させるためにも、私たち一人ひとりが健康に関心をもち、健康寿命を延伸させることが大切と、この話題を締めました。

社会保障の現状を含めて現在の社会の歪みは、不景気によるところが多大にあるというのは誰もが背くところですが、わが業界に限らず、日本の経済状況は依然として冬の時代が続いています。

私たちは、古川社長に「ご商売はいかがですか」と漠然とした問いを投げかけました。「確かに厳しいです」。誠に失礼ながら想像していたとおりの答えが返ってきました。しかしながら、この言葉に続いて氏の口から発せられた言葉は、「いまだかつてないほどのファイトが湧いてくる」とのことでした。「世の中、厳しい時代にこそビジネスチャンスが転がっている」と氏は断言されました。

二〇世紀の終わりがから米国が規制緩和を推進した結果、それは大手企業に有利に作用し、生き残る道を模索しきれなかった中小零細企業は、存続の術をなくして次々に淘汰

外しかけたとき、的確なアドバイスをしてくれるパートナーがほしいとの悩みは、どの企業の事業主も同様に思うことではないのでしょうか。氏は、「世の中に埋もれている人材は山のようにいるはず」とおっしゃいました。

ますます厳しい時代のなかで古川運送は、今後こうした人材の発掘に成功され、盤石の企業になっていくのだと、私たちは確信しました。

## ストレスは「走りながら」 上手に解消

古川社長の好きな言葉は、「分相応」と「適材適所」だそうです。社会のなかで、自分を必要とする環境に身を置き、そこで充分に実力を発揮するのが氏のスタンスのようです。

「ストレスの解消法は？」とお聞きすると「マラソン選手のように走りながら解消する」との答えが返ってきました。日常業務をこなすなかで上手にストレスを解消されておられるようで、これも氏がモットーとする言葉を実践する現れなのでしょう。

加えて、奥さまの協力を得て食事や睡眠にも気をつけていらつしやう。企業の成長とともに、重くなる責任をひしと感ぜられ、無意識のな



夢を背負って走るトラックの前で、勢ぞろいした社員の方々

かにもご自身に合った健康管理の方法が確立されているように感じました。

古川社長は昨年の組合会議員改選時に選定議員に就任されました。

「健保の仕事は、今まで引き受けた役割でいちばん難解」と謙遜されましたが、健保を取り巻く環境がきわめて厳しい折り、ぜひ新風を吹き込んでいただきたいと最後にお願ひし、今日の取材を終えました。

古川運送の皆さん、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

＊

今日の取材場所から数分車を走らせると、目の前には雄大な太平洋が広がります。少し遠回りをして夏の喧噪に一段落ついた海辺を眺めながら、私たちは帰路につききました。